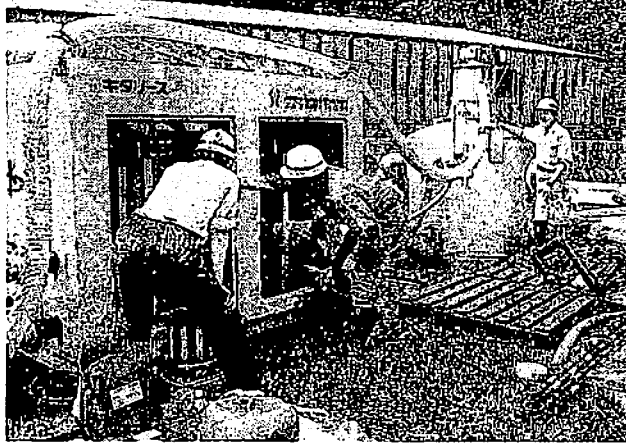


城震 川崎の企業開発のろ過装置 手陸 岩内 強力機能で水供給

岩手・宮城内陸地震で被災した岩手県奥州市の浄水場の給水機能を支えるため、川崎市川崎区のろ材メーカー「日本原料」(齋藤安弘社長)が開発した移動型ろ過装置が本格稼働を始めた。ひび割れができるなど大きく壊れた浄水場の復旧工事が終わるまで、住民の命の水を供給し続ける。活躍しているのは災害用に開発された移動型の急速ろ過装置「モバイルシフォンタンク」。小型ながら強力なる過機能があり日量四百六十トを処



被災した浄水場で始動した移動型ろ過装置
—岩手県奥州市

理する。齋藤社長はろ過に現地入り。水質に合わせ調整した上で七月四

日から始動した。

浄水場はこれまで日量二百七十トを処理していた。奥州市はろ過装置に水処理を委ねて、ろ過池など浄水場の復旧工事を進める方針だが、本格復旧には数カ月かかる見通しという。

六日まで陣頭指揮に当たる予定という齋藤社長は「震災直後に被災した浄水場があると知り、派遣を決めた。会社を挙げて支援を行った結果、短い準備で本格的な水処理ができた」と話している。

同社のろ過装置は、二〇〇五年には台風で冠水した宮崎市の富吉浄水場の洗浄作業に携わるなど、被災地で実績がある。

(三木 崇)